2023年11月15日 中日新聞 朝刊 12頁

春野伝説 児童演劇に

文化芸大生脚本　せりふ読み込む

浜松市犬居小（天竜区春野町）の５、６年生９人が、12月の学習発表会で春野の伝説を基にした劇を演じようと練習を始めた。同町で調査研究を続けている静岡文化芸術大の学生４人が９日、同校を訪れ、伝説の特徴や他の地域との関係性を説明し、児童たちが理解を深めた。（野瀬井寛）

大学生とともにせりふを読み合わせる児童（前列左３人）＝浜松市天竜区の犬居小で

家康と武田の攻防、大蛇　来月、犬居小で発表会

演じる伝説は、学区内が舞台となる２つ。武田方だった犬居城の天野氏と家康が戦った際の伝説「徳川家康と和田之谷の桶屋」は、敗走する家康が桶に隠れ、難を逃れる代わりに桶屋の仕事を手伝わされるという筋書きになっている。学生らは、家康の敗走伝説が区内だけでも複数の地域にあり、仕事を手伝う点も共通していると話した。

もう一つの「新宮池の大蛇」については、近くで土砂災害があったことを語り継ぐための伝説だった可能性があると話した。他に「犬居つなん曳の由来」「しっぺい太郎」も紹介した。

伝説について解説があった後、児童たちは学生が作った脚本を基に、せりふを読んで練習を始めた。６年の秋元瑞希さんは「家康と天野氏の戦いは学習してきたけど、桶屋の伝説は初めて知った。本番までに練習して、動きのある演技をしたい」と意気込んだ。学生らは、せりふを春野の方言に直して演じるよう求めたという。

同大では、二本松康宏教授（伝承文学）のゼミが、10年ほど前から天竜区内で民話や伝説の聞き取り調査を続けてきた。ゼミ生の中沢明音さん(22)は「失われかけている伝承が、再び地域に根付くようにお手伝いができたら良いと思う」と話した。

発表会は12月2日午前中にあり、地域住民に公開される。

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています